

山梨大学医学部附属病院 **[地域医療連携だより]**

パートナー

2024
vol.19

令和6年10月発行

[特集] 診療科・部門のご紹介

呼吸器内科／消化器外科

手術部／看護部



山梨大学医学部附属病院 診療科・部門のご紹介

呼吸器内科

Respiratory Medicine

山梨県では、これまで呼吸器内科医の育成を担う教育機関が不十分だったため、呼吸器内科医の数が全国平均と比べて著しく少ない状況にあります。人口10万人あたりに換算

すると全国で2番目に少なく、絶対数では全国最少であることが課題です。そのため、多くの呼吸器疾患が見逃され、適切な治療が受けられなかった可能性があります。

この課題に対応するべく、山梨大学医学部では令和4年度に呼吸器内科を正式に開設し、県民の皆様にも最先端の医療を提供するため、診療体制や教育体制を強化してきました。現在では、外来診療が拡充され、毎日初診患者の受け入れが可能です。また、がんセンターと連携し、肺がんが疑われる患者さんへの迅速な対応が実現しました。

肺がんや間質性肺炎の診断に不可欠な気管支鏡検査は、令和5年度に200件を超え、クライオ生検などの新技術を導入して、診断精度の向上に取り組んでいます。呼吸器内科の入院患者数も増加傾向にあり、令和4年度に

は肺がん患者が316人、前年度比で50人増加しました。

また、がんゲノム医療も積極的に取り組み、診断時だけでなく、標準治療が困難となる際の包括的がんゲノムプロファイリング検査を実施し、エキスパートパネルも令和6年10月から院内実施を予定しており、患者さん一人ひとりに最適な治療法を提供する体制を整備しています。

さらに、毎年新たな医局員を迎え、今後の山梨県における呼吸器診療の発展を支える人材育成にも注力しています。



消化器外科

Digestive Surgery

全国がん登録では、社会の高齢化と共にがん患者が増加し、毎年100万例以上のがん罹患数(推計値)が報告されています。内訳としては消化器がんが最も多く、男性の6

割弱を占めています。

当院の消化器外科(第一外科)では、「世界レベルの治療を地域に」をモットーに、最先端のロボット手術を、胃癌や大腸癌のみならず、膵臓癌や肝臓癌など、保険診療で認められている全ての術式に導入し、実施できる体制を整えています。近年の研究では、従来の腹腔鏡手術の弱点をロボット手術で克服することで、術後合併症を減少させるだけでなく、長期予後の向上も期待されており、今後さらに推奨していきたいと考えています。また、内科的治療に抵抗性のある肥満や糖尿病患者に対する外科的治療(スリーブ切除)も導入を準備し、多職種・多診療科で診療を開始しております。

一方で、新たな分子標的薬剤や免疫療法などを含む新たなレジメン開発や包括的ゲノム解析による個別化治療の実践によって、薬物療法の治療成績も格段に向上しています。これら最先端の薬物療法と外科切除を併せた集学的治療にも積極的に取り組み、ご紹介時には切除不能であった高度進行がんに対しても良好な治療成績を挙げています。

今後も地域の先生方との患者さんを安心して紹介いただける良きパートナーとして、私ども消化器外科をよろしく願い申し上げます。



手術部

Surgical Center

手術部では、手術室を全13室完備し、年間約7,000件の手術を行っています。外科系・内科系・小児科・精神科など多くの診療科が安全に治療を行える場として手術室を利用しており、新生児から100歳を超える高齢者まで幅広い年齢層の患者さんに、高度な手術医療を提供しています。また、24時間体制で緊急手術の受け入れにも対応しています。

移動式3テスラ磁気共鳴画像診断装置(MRI)搭載手術室、血管撮影のできるハイブリット手術室、バイオク



移動式3テスラ磁気共鳴画像診断装置(MRI)搭載手術室



血管撮影のできるハイブリット手術室

リーン手術室、O-arm術中イメージングシステム2台、術中ナビゲーションシステム3台、手術支援ロボットダヴィンチ3台、3Dや4Kなどのハイビジョン内視鏡手術システム17台の最先端の医療環境を整え、より複雑で高度な術式にも柔軟に対応することが可能です。麻酔器、生体モニター、エコー装置も最先端の機種を備え、手術中の患者さんの安全確保に万全を期しています。



O-arm
術中イメージングシステム



手術支援ロボットダヴィンチ

手術部は、手術に携わる医師、歯科医師、手術室看護師、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士、コメディカルスタッフなど多職種の医療者が連携して業務にあたること、患者さんを中心としたチーム医療を目指しています。今後も患者さん一人ひとりのニーズに寄り添った質の高い手術医療を提供してまいります。

看護部

Department of Nursing

看護部は約960名の看護職員が所属しています。「すべての患者さんに安心を」の理念の下、当院の役割である高度な医療と看護を提供するために日々研鑽を重ねています。

私たち看護職は、多様な経験を重ね、主体的にキャリアを歩むことを大切にしています。このため、新採用者が安心して看護師としての一步を踏み出せるよう多様な研修プログラムでサポートし、その後もラダーシステムによる段階的な継続教育を行っています。また、特定看護師や専門看護師、認定看護師の育成、大学院進学も積極的に進め、2024年8月現在、特定看護師9名、専門看護師4名、認定看護師23名が在籍して、院内外で

活躍しています。さらに、院内助産や看護外来、災害派遣医療チーム(DMAT)など地域に貢献できる看護師の育成を行い、看護の質向上を図り安心・安全な看護を提供できるよう取り組んでいます。

看護部全体で働きやすい環境づくりにも取り組んでおり、家庭と仕事のバランスが良好に保てる働き方を目指しています。職員一人ひとりのライフステージに応じた柔軟な対応を推進し、良好な職場環境の構築に努めています。

現在、患者サポートとして、入院支援室や退院支援室の看護師を増員し、入院前から退院後の生活を見据えた安心につながる医療が提供できるよう、多職種と共に地域との連携を強化しています。地域の皆様に安心して医療を受けていただけるよう、看護部一同これからも努力を続けてまいります。



育児休暇を取得し、特定看護師の資格を取得。現在大学院に進学しながら病棟で勤務。

セミナー・講演会等のお知らせ				対象：医療従事者
開催名	主 催	開催日	開催場所	お問合せ先 (内線番号)
第82回 山梨県眼科集談会	山梨大学医学部眼科学講座 他 共催	2024年11月2日	オンライン 甲府記念日ホテル	内線 2372
第57回 がんセンターセミナー 「乳がんの標準治療について」	山梨大学医学部附属病院がんセンター	2024年11月28日 【申込期限】 2024年11月24日	オンライン	内線 2190

※上記セミナー・講演会へのお問合せは TEL:055-273-1111 (代表) へお掛けのうえ、お問合せ先の内線番号をお伝えください。

地域医療連携登録機関制度のご案内

この制度は、地域医療の充実と効率的な医療提供体制を確立するため、特定機能病院として重症な「紹介」患者さんの受け入れを行うとともに、比較的病態が安定している入院・外来患者さんの「逆紹介」を積極的に行ない、地域の先生方との連携を充実させていくことを目的としています。

1. 地域医療連携登録機関とは

当院に紹介あるいは逆紹介させていただいた患者さんに、シームレスに診療・看護・リハビリテーション等を提供する機関です。

2. 協定の締結について

当該制度について賛同し、提携いただける場合には、下記URLより「地域医療連携施設協定書」をダウンロード後、必要事項をご記入のうえ、2部を地域医療連携室までお送りください(既に「地域医療連携施設登録証」を発行している機関も含みます)。

●地域医療連携施設協定書 <https://www.hosp.yamanashi.ac.jp/5917/>

「2.地域医療連携施設協定書(Word)」をクリックしてください

また、下記のQRコードあるいはURLより「情報提供書」の入力もお願いします。なお、連携に際する相談希望がございましたら、「相談申込」も入力ください。

●情報提供書 (病床なし)		●情報提供書 (病床あり)		●相談申込 (希望する場合)	
	https://x.gd/9Zc3t		https://x.gd/KDKjj		https://x.gd/TV00j

※各機関から入力いただいた情報提供書をもとに、逆紹介の依頼をさせていただきます。

※「相談申込」を入力いただいた場合、具体的な連携内容に関して、協議の場を設定させていただきます。

当院の地域医療連携室から、順次、その日程調整の連絡をさせていただきます。

地域医療連携登録機関制度について

<https://www.hosp.yamanashi.ac.jp/5917/>

【お問い合わせ／送付先】

山梨大学医学部附属病院 地域医療連携室

E-mail: renkei-kyotei-as@yamanashi.ac.jp